

みどりの風

山口県自然観察指導員協議会 会誌

山口自然観察会 No.111

2021年 7月(夏号)



私たちは地球生命体の永遠なるいのちを願って活動しています

今後の会議の予定

第4回役員会 日 時 令和3年9月5日(日) 10時～下松市中央公民館

みどりの風 掲示板

1 今年予定の、中国地区交流会(広島)は、コロナ禍のため、来年に延期されました。

2 令和4年度定時総会について(予定:詳細は次号に掲載)

令和3年11月21日(日) 上関町総合文化センター 10:00～

3 会費納入のお願い

令和3年度会費未納の会員の方には、7月(夏号)の封筒に振替用紙が同封されています。すみやかに納入をお願いします。なお、行き違い等がありましたら、ご容赦ください。

会計係

表紙説明

こんにちは ヤツガシラ

今年は桜の開花が全国的に早かったですが、その4月初旬、ついに初めて ヤツガシラ をカメラに収めることができました。会員の皆様の中には、もう見たよという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

畑地の近くで、長い嘴を器用に使って餌をついばんでいました。当日、知人の連絡で知りました。

2021年4月3日(土) 下関市角島で撮影 第5支部 植田高弘

阿武風力発電事業環境影響評価方法書 住民説明会に参加して

第2支部（会長）大田和彦

令和3年4月24日（土）13:30～15:00萩市須佐公民館で行われた上記説明会に初めて参加しました。風力発電については、バードストライクや騒音の影響がある程度しか知識を持ち合わせていなかったのが研修のために参加しました。参加者は10名程度で、主催者側は3名でした。説明や質問への回答はリモートによる形式でした。はじめに74ページの資料による説明が1時間ほどあり、後半30分間質疑応答が行われました。

説明の内容は、①事業会社について②阿武風力発電について③環境影響評価について④今後の予定についてで、事業会社は日立サステナブルエナジー株式会社。国内に31発電所を建設している。県内では、豊浦風力発電所を建設。

阿武風力発電事業は、4,200kW×13基=54,600kWの規模で20年間中国電力に全量売電予定。発電機の高さは148m、ローターの直径は116m、ブレードは3枚。

環境影響評価（環境アセスメント）は、環境影響評価法に基づき配慮書・方法書・現地調査・準備書・評価書の順に手続きをするようになっていきます。現在は方法書の段階で、調査、予測および評価の手法の取りまとめをしたところです。環境影響評価の項目は、騒音低周波音・振動、水質、風車の影、動物・植物・生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物・残土と多岐にわたる。動物については、ほ乳類・鳥類・は虫類・両生類・昆虫類・魚類および底生動物を10数カ所で調査。

今後の予定は、方法書の縦覧が令和3年1月29日から4月30日まで阿武町や萩市の役場、支所等で行われ、意見書提出期間は令和3年1月29日から5月14日となっています。環境影響調査は令和3年から4年にかけて実施され、準備書作成は令和5年、評価書作成は令和6年の計画となっています。従って運転開始は6年後の予定です。

質疑応答

- 1 風力発電所を設置した地域は、地価が下落しているが？
→ 把握していない。
- 2 設置後騒音などの弊害が出た場合、補償は？
→ 行う？
- 3 生物への影響は？（バードストライクや低周波等）その基準は？専門家は？
→ 今後調査を行う。
- 4 環境影響評価後計画変更は？
→ あり得る？
- 5 風力発電所設置のメリットは？
→ 祭りや農業・漁業の支援、学校教育（環境）、電力販売

環境保全活動等実践講座

次世代自動車の 利活用促進



環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現に向けた重要な施策のひとつとなっている環境性能に優れた自動車、いわゆる「次世代自動車」の現状と、その普及に向けた取組について理解を深めます。

令和3年
7月29日 日 月 日 日

10:30~15:00

締切7月12日 月 日

場所：山口県セミナーパーク
研修棟セミナー室1

参加対象：一般県民 30人程度
(応募者多数の場合は抽選とします)

参加費：無料（昼食各自）

- 10:30 開会
- 10:40 講義①「次世代自動車の現状と課題」
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 講義②「自動車100年に一度の変革と新しい社会」
- 14:30 貴島先生と語ろう！（質問タイム）
- 15:00 閉会



講 師

マツダのスポーツカー作りのレジェンド&カリスマ！

きじま たかお
貴島 孝雄氏

公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学工学部機械工学科 教授
環境やまぐち推進会議
次世代自動車利活用部会 会長
元マツダ株式会社商品開発本部開発主査

【主催】公益財団法人山口県ひとつくり財団 県民学習部

夏休みの環境学習に参考になると思います。お子様、お孫様にもお知らせください。詳細は、山口県ひとづくり財団へ 083-987-1730

夏休み子どもエコ合宿

温暖化から地球を救え

対象 小学4～6年生

1日目

今! 地球で起きていること
実験で学ぶ地球温暖化

2日目

子ども樹木博士プログラム
カードゲームでSDGs体験!

8月28日(土)

8月29日(日)



午前

○講義 宇宙から地球で起こっていることをみてみよう
講師 JAXA 宇宙教育センター 主事 古賀 友輔

午前

○実習 「子ども樹木博士プログラム」
～自然ふれあいゾーン～
講師 やまぐち自然共生ネットワーク会員 (樹木医)

午後

○講義 宇宙兄弟の劇読本より
実験で学ぶ地球温暖化
○実験 地球温暖化・CO₂について
講師 やまぐち総合教育支援センター職員

午後

○カードゲームでSDGsを体験しよう
講師 エックス都市研究所 研究員 八百屋 さやか
○環境絵日記作成



参加費 2,500円 (1日目の昼食から2日目の昼食までの食費として)

定員 30人程度
(応募者多数の場合は抽選とします。)

その他 日程の詳細や持ってくるもの(筆記用具、着替え、洗面道具など)については参加決定者に別途お知らせします。宿泊はセミナーパーク宿泊棟を利用します。

申込方法 7月21日(水)までに、申込書(裏面)又はハガキに参加する児童の氏名、性別、学校名、学年、保護者氏名、住所、電話番号を記載し、FAXまたは郵送で県民学習部に申し込んでください。必ず保護者が申し込んでください。

主催：公益財団法人山口県ひとづくり財団 共催：山口県 後援：山口県教育委員会

環境学習講演会のご案内

お問合せ先 083-987-1730

夢トーク in やまぐち講演会Ⅱ～環境学習講演会～

環境問題を科学的に考える

すずき こうじ
小説家 **鈴木 光司**氏

1957年、静岡県浜松市生まれ。慶應義塾大学文学部仏文科卒。

90年、『楽園』が日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞して作家デビュー。

『リング』『らせん』『ループ』『バースディ』のシリーズが計1000万部のベストセラーとなる。『リング』シリーズ、『仄暗い水の底から』は、日本とハリウッドで映画化される。

高校教師であった妻に代わり、ふたりの娘を育てた経験を持つ。ヨットを愛し、小学生の頃の夢は太平洋横断。著作は世界二十カ国語に翻訳され、国内外を問わず、積極的に講演活動を行い、海外メディアのインタビューも数多くこなす。



日時 **9月5日(日)** 13:30～15:00 (13:00開場)

場所 山口県セミナーパーク 講堂

入場無料

定員 **300名** ※ 希望により要約筆記あり

【主催 公益財団法人山口県ひとづくり財団】

【共催 中国地域エネルギーフォーラム】

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、やむを得ず内容の変更や中止になる場合があります。

■お申し込みについて■

「ホームページ」、「携帯サイト」、「郵便はがき」(必着)のいずれかの方法でお申し込みください。電話・FAXでの申し込みは受付しておりません。開演日の前々日の午前中に会場整理券を郵送いたします。(定員を超過した場合は抽選となります)

■お申し込み方法■

1「ホームページ」

お申し込み用紙をホームページ <https://www.jr1021.jp/>よりダウンロードして、申込フォームへお申し込みください。

2「携帯サイト」

お申し込み用紙をスマートフォンを渡り、申込フォームへお申し込みください。

3「郵便はがき」

1. 講演・講演者(講師名)、2. 参加希望人数(2名まで)、3. 氏名(フリガナ)、※2名の場合は代表者、4. 郵便番号、5. 住所、6. 電話番号(自宅)、7. 携帯電話(お電話)を明記の上、以下の宛先にお送りください。

【あて先】 主幹 0832 山口県セミナーパーク 1062 山口県ひとづくり財団(環境学習部)

※お申し込みの際に必要とした個人情報(住所)を、講演・講座の事前連絡及び当日の講演会の開催地にはこの目的で利用することはありません。



【募集期間】

7月15日(木)から
8月19日(木)まで
はがきの場合は必着

裏面の注意事項をお読みください。

北浦自然観察会(第6支部) 2021年6月から10月までの行事の詳細

第6支部 永井要明

6月27日(日) かたつむり観察会 角島・神田岬付近

8:00 萩市中央公園、10:00 角島大橋駐車場(本土側)

自家用車乗り合わせ 参加費2000円、現地集合500円

7月27日(日) 広島県もみのき森林公園 オニノヤガラ、シロテンマ

8:00 萩市中央公園集合、9:00 津和野道の駅「なごみ」

バス定員有り、参加費約7000円

9月5日(日) 萩市吉部のため池、山口市徳佐中東畑のため池、防府市桜峠の

湿地、山口市稔(うつぎ)畑(ばた)17区の湿地 イヌセンブ

リ、タムラソウなど

7:00 萩市中央公園、7:30 吉部のがんこ村

自家用車乗り合わせ 参加費2500円

10月10日(日) 山口市阿東徳佐上段腹山・三原山縦走 トリカブト・スミレサイシ

ン・サイハイラン

7:00 萩市中央公園 8:00 徳佐丸久

自家用車乗り合わせ 参加費1000円、徳佐集合は500円

10月31日(日) 広島県大竹市三倉岳 紅葉

6:30 萩市中央公園 7:00 津和野道の駅「なごみ」

バス定員有り 参加費4500円

持参品	弁当・水筒・メモ帳 有ればカメラ・杖・双眼鏡
服装	歩きやすい服装、トレッキングシューズ又は長靴 カッパ又はボンチョ、リュックサック、帽子

NACS-J から生物季節観測調査協力のお知らせです。

詳細は国立環境研究所のウェブサイトまたは、日本自然保護協会、日本自然保護協会の高川晋一様まで、お問い合わせください。(全文の内、一部抜粋しています)

全国各都道府県の自然観察指導員連絡会事務局の皆さま
ご無沙汰しております NACS-J の高川です。

さて、今日は皆さまにお願いがあり、ご連絡いたしました。
生物季節観測調査にご協力いただけないか、というご依頼です。

気象庁が、長年続けてきた「生物季節観測」を一部廃止することを昨年 11 月に発表し、大きな話題となったことを覚えておられる方も多いかと思います。
これに対し NACS-J では再考を求める意見書を提出しました。
その結果、気象庁および国立環境研究所が事務局となり、全国の市民とも協力して本調査を継続することを、この 3 月に表明されました。

そしてこの度、まずは国立環境研究所が事務局となった「調査員調査」が開始されることになりました。
この調査は、これまでの調査方法をなるべく変えない形で、一部の調査項目(生物種)や一部の場所だけでも、継続していこうというものです。
私たち日本自然保護協会も、この調査への参加協力の呼びかけにご協力することになりました。

調査方法の詳細については下記、国立環境研究所のウェブサイトをご覧ください。

調査の多くは「対象生物の初見や初鳴き」なので、まじめに行うと高頻度での観察が必要となります。ただ、今回は従来の調査地である気象台だけでなく、好きな調査地をエントリーすることも可能となっています(もちろん気象台に近い方は大歓迎です)。また調査対象も、本来はかなりの種類がありますが、一部の生物だけでも実施いただけることになりました。

日頃から自然観察をされている自然観察指導員の皆さまであれば、ご自宅周辺やマイフィールドにおいて取り組める方も多いのではと思います。

国際的にも意義の高い調査ですので、是非ともご協力いただけますと幸いです。

なお、本調査に関する質問については直接国立環境研究所の下記ご担当者様にお伝えいただきたいのですが、質問前に高川に確認しておきたい、相談しておきたいことなどあれば、直接私までご連絡ください。

以下、国立環境研究所の事務局をつとめる辻本様からのメッセージと、ご連絡先です。それではどうぞよろしくお願いいたします。

全国の Nacs-J 会員及び市民調査員の皆様へ

国立環境研究所の辻本と申します。本研究所が取り組んでいる生物季節モニタリングの調査員のご協力依頼をさせていただきます。生物季節モニタリングとは、これまで気象庁が観測してきた生物季節観測を発展的な観測とすべく、国立環境研究所が中心となっていく生物季節現象の長期モニタリングプログラムです。このような長期観測は、気候変動が注目を集める昨今、非常に重要な分野です。高い専門性を持った皆様にご協力いただけることで、過去の観測よりも高い水準で全国を網羅できる長期モニタリングが実現されます。どうぞお力添えいただければと存じます。

■お問い合わせ先

国立環境研究所 気候変動適応センター 気候変動影響観測研究室

担当：辻本翔平 (tsujimoto.shohei@nies.go.jp) Tel:0298-50-2375

室長：西廣淳 (nishihiro.jun@nies.go.jp)

日本自然保護協会 市民活動推進部

高川晋一：takagawa@nacsj.or.jp tel.070-2249-3388

～自然のちからで、明日をひらく。～

公益財団法人 日本自然保護協会 市民活動推進部

takagawa@nacsj.or.jp tel.070-2249-3388

104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

<http://www.nacsj.or.jp/> [【facebook】](#)[【twitter】](#)

第3支部 活動報告 世界を旅する植物館見学・外来種観察会
令和3年2月21日(日)

第3支部 増野和幸

今回の内容は、宇部市常盤公園植物園の見学と公園内に移入した外来のかたつむりの観察でした。ときわミュージアム・世界を旅する植物館は、昔からサボテンとラン(蘭)の栽培が有名ですが、最近、全国的に活動されているプラントハンター・西島清順さんの協力を得て、世界の植物展示をコンセプトに新装されました。熱帯・アフリカなど8つのゾーンに分けて、世界各地の代表的花木が植栽されています。当日はガイドさんの説明を聞きながら、興味深く見学することができました。マダガスカルに原種があるバオバブの樹、長い距をもつ大きな白い花をつけたアングレカム(アフリカ産)、熱帯アメリカ原産・ネムノキ属のモンキーポッド(日立グループのTV・CMの大樹)、2年に一度2日間だけ開花する巨大なスマトラコンニャク、幹に直接花をつけブドウのような甘酸っぱい実をつけるジャボチカバ(ブラジル原産)など、珍しい植物を観察しました。

外来のかたつむり観察では公園内の花壇に、20年ほど前に宇部市内で発見された大人の親指ほどもある、ヨーロッパ原産のオオクビキレガイの生息が見られました。また、湖畔の林では、九州・対馬固有種のツシマケマイマイという種類が、繁殖しているのが見られました。ツシマケマイマイは、県内普通に生息するチクヤケマイマイに外見はそっくりですが、軟体部の生殖器が大きく異なり別種です。人や物の移動が地球的規模になり、動植物も予期せぬ移動が見られる今日です。けっして好ましいことではないでしょう。

当日は、10人の会員と知り合いの参加があり、お天気も良く、とても楽しく有意義な研修会になりました。参加された皆さん、ありがとうございました。



(上左: 熱心に観察、上右: 見事に咲いたデン
ドロビウム、下左: 湖畔の林で国内移入種の観察、下右: 外来種・オオクビキレガイ)

第3支部 活動報告 エヒメアヤメ観察会

令和3年4月11日(日)

第3支部 増 野 和 幸

4月11日(日)、気持ちの良い暖かい晴天の日、防府市西浦にある国の天然記念物「エヒメアヤメ自生南限地」を訪れました。昨年はコロナ感染拡大のために、一般公開が中止となりました。今年はコロナに注意しながらの一般公開です。今年の公開は3月からの暖かさが続き、開花が早く例年の公開よりも1週間早くなり、4月3日(土)から12日(日)までの公開となりました。例年の公開時期を見込んでの観察会実施だったため、私たちが訪れたのは、翌日に公開終了日を控えた前日となりました。そのため開花の最盛期は過ぎていました。でも、保存会の丸山一生会長さんの熱い思いのこもった案内により、参加した7名は十分に満足を感じることのできる観察会となりました。私たち以外にも、大勢の人たちが可憐な姿に目を向け、シャッターをきっていました。エヒメアヤメは茎の長さが約10センチ、花の大きさが5センチほどの小さな青紫色のアヤメ。朝鮮半島、中国東北部など、寒い地方に多い北方系の植物です。防府市の西浦は自生の南限地となっています。参加された上重一枝さんが10数年前に訪れた時に発見したエヒメアヤメの株に再会。丸山会長さんはその株を指しながら、丁寧に保護活動の話をされました。保護には公開の時期以外の日頃の草刈りがとても大切であること、種子の自然散布にはアリなどの小動物たちによる種子運びが重要であることなどを話されました。できることなら、来年は開花の最盛期に訪れてみたいものだと思います。観察会に参加された皆さん、お疲れ様でした。



(左：開花したエヒメアヤメの株)

(右：丸山会長さんの説明を聞く参加者)



これを先ず除去した(左上)。



迷いそうな尾根にも案内板を取り付けた(上中・右上)。



この先にイノシシのぬた場がある。そこを過ぎてシダの多い沢を渡ると植林を管理する山道と金郷溪へ向かう方向の分岐点がある。11:30 ここにも案内板を付けた(前ページ右下)。標高は 340m。ここからかなり急な坂を下っていく。H260mの所に倒れた名勝境界がある(左下)。



ここから先は急な坂の連続で持参したロープを着けながら降りていった(上中)。途中痩せ尾根の岩にコウヤコケシノブ (だろろうと思う) がびっしり着いていた(上右)。

ロープは標識ロープ 50mと、トラックロープ 20m、合計 70m取り付けた。猿溪瀑布に到着したのは 14:45 分だった。昨日までの雨で水量が多く、見応えがある。下流から写した写真と横から写した写真を紹介する。





ここに次のような標識を取り付けた。

この日は時間が無くなったので、作業は終わりにした。15:05、梯子を造るための鉄筋と銅線は重いので袋に入れたまま置いて帰途についた。一番重たい物は鉄筋とロープだったので、帰りはかなり軽くなったが、駐車場に戻ったのは18:10だった。歩き始めて9時間かかった。作業しながら

歩くといつの間にか時間が経過している感じだった。途中滑りこけて足首を打撲した。翌日萩市の大藤医院で見てもらったら足首の靱帯を痛めたそうである。湿布薬を処方してもらった。作業はまだ大仕事が残っているので、最低もう一度は行かねばならない。

追伸2

6月17日、仕事が未だ来ないので、金郷溪に向かった。9:00に駐車場から出発した。歩行補助のためのロープを更に2カ所くらい追加した。次の写真はその内の1つである。



6月6日に6人で行ったときは、尾根の途中から猿溪瀑布の真横に急な坂を下りたが、そこは少し危険が多いので、尾根の先端に先ず降りて、猿溪瀑布の下手から猿溪瀑布に行くルートを新しく着けたのである。尾根に先端に降りたところに猿溪瀑布と江毛九郎堰の方向を示した案内板を付けた。今回はここに鉄筋と銅線を残したのである(上右)。

12:15に昼食を済ませ、大きな段差のあるところに向かった。荷物を作業するところの近くに置いて、少し戻って、真っ直ぐな木を切った。これを梯子の両端に使い、踏み段は鉄筋を銅線でくくった。鉄筋が滑り落ちないように、鋸で木に溝を掘っている。これで5年間くらいは大丈夫だと思う。この作業だけでほぼ1時間かかった。



次に洞門の前の危ないところに行った。
次の写真は作業の前の物である。



一番手前のボルトハーケン（アンカー）の
ロープを通すところがさびて朽ち果て、ロー
プは下に垂れ下がっている。前よりは下の位
置に新しくボルトハーケンを打ち直してロ
ープを通した(上右と左下)。

これで 30 分かった。本当は真ん中のボ
ルトハーケンも朽ちかけていたので直した
かったが、15 時近くなっていたのでこの日

は諦めて帰途についた。帰る途中、前回トラックロープを取り付けたところが、余りにも歩きにくいので着け直した。今回も余ったロープは次回のために現地に置いて帰った。どうせもう一度は来なければならないので。次回はハーケンが一カ所と、鋸で邪魔な木を切ることが作業の中心である。

17 時 55 分に駐車場に着いたら、木原林業の作業員が下見に来ていた。近いうちに木を伐採するそうである。作業車は林道の奥まで行けるが、金郷溪へ行く者は柵の手前の広い駐車場までしか行けないので、邪魔になることは先ず無いと思う。この日も 9 時間かった。前回痛めた左足首の靱帯はさほど気にはならなかった。

追伸3

6月20日、3度目の金郷溪行きである。今回も作業が中心。9:15に駐車場から歩き始めた。林道の中程の一番低いところはH310mくらいである。10:30に分岐に着いた。ここに次の写真のような標識を着けた。



この日もかなり下の方でロープを着けた(右上)。

12:10に猿溪瀑布に着いた。前日までにかなりの雨が降ったので、水量が多く今までで一番迫力がある。



このように水量が多いときにはゴムボートでは対岸には渡れなかったが、陸上ルートなら来ることができるのである。昼食を済ませ12:35に出発した。次の写真はロープを着け直した所である。



大木が横たわり邪魔にはなるが、今回は見送った場所がある(左)。

江毛九郎堰の手前で次のような案内板を設置した(右下)。川側は砂と

石が流され歩きにくくなっている。そのため対岸を見るには左奥の方に行き、木の間越しに江毛九郎堰と対岸の道路を見るしかない。

この日は時間が無いためその奥の方を、少しだけ木を切って見えやすくしただけで作業を終えた。14:45に帰途についた。駐車場に戻ったのは17:50だった。7時間35かかった。



令和3年度 第3回役員会議事録

開催日時・場所

日時 令和3年6月6日(日)10:00～11:00

場所 下松市中央公民館(ほしらんどくだまつ)交流室1A

・出席 8名(黒田、大田、蔵田、永井、松原、林、平田、植田)

議題 ①中国五県交流会(広島)について

来年に延期。コロナ禍のため。

②令和4年度定時総会について

令和3年11月21日(日)10:00～

上関町総合文化センター(中央公民館)

・総会

・講演 ニホンアワサングについて 藤本正明氏

・観察 植物 真崎 久氏の予定

③「みどりの風」編集会議

・会誌担当を組織化する。3人程度で担当。(4支部の松原、5支部の女性会員、植田編集長)

・B5版かA4版か、次回決定する。

○その他

・6月27日(日)カタツムリ観察会10:00角島

・6月28日(月)指導員派遣 14:00～

長門市立日置小学校 水辺の教室 大田、広瀬、植田

・緑の少年隊交歓大会 8月6日(金)

・会への寄付 伊藤忠雄氏 1万円

《 編集後記 》

夏号をお届けします。全国的にコロナのワクチン接種が加速的に進んでいます。

早い方は、もう済んだと言われる方もいらっしゃることでしょう。接種が済んだ方も引き続き対策をしっかりとってお過ごしてください。

気象庁が長年にわたって観測し続けてきた生物季節観測が大幅に削減されるという報道が話題になりました。地道に観測してきた調査はいったん途切れてしまうと、取り返しのつかない事になってしまうかもしれません。末永く続けて行って欲しいと願わずにはられません。(U)

山口県自然観察指導員協議会会誌
＜みどりの風＞

個人レベルでの

■発行 山口県自然観察指導員協議会

会長 大田 和彦

〒744-0043 下松市東陽 2-2-5

Tel(Fax)0833-46-0103

■機関誌編集長 植田 高弘

〒759-6603 下関市安岡町 8-14-21

Tel(Fax)083-258-2706

第17回「楽しく見て、しっかり知ろう 切戸川の自然」

- 1 目的 切戸川の自然観察体験を通じて、自然と人間との関わり方に気付き、環境の現状を体験する。また、「環境学習」「自然との楽しいふれあい」を重視し、青少年の健全育成をめざす。
 - 2 主催 いいまちつくろう創星倶楽部 後援 下松市教育委員会
協力 山口県自然観察指導員協議会 Kビジョン株式会社・あかい坊
 - 3 日時 令和3年7月25日（日）8：30～
 - 4 集合場所 久保小学校
 - 5 実施場所 切戸川上流、久保小学校付近～
 - 6 服装、持ち物 帽子・川に入れる服装・くつ・手網・水筒・筆記用具
 - 7 問合せ先 大田和彦 TEL 0833-46-0103
090-1189-8763
- ※ 雨天の場合中止

